<一般研究>

父親の育児に関する認識と実践について(第2報)

研究第2部　窪　龍子・青柳幸子
高野　陽

I　はじめに

第1報において既に述べたように，われわれは幼児を持つ父親がどのような子ども観をもって育児を行なっているのか，また父親の社会的背景が子ども観や育児の実践に影響を及ぼしているのかを知るために，アンケート調査を実施した。その結果，父の年齢・学歴・職業等，父親の社会的条件が，子どもの性別・出性順位よりも，父親の子ども観・育児の実践・父親としての自己像・自分の父親の人柄のとらえ方に影響を及ぼしていることがわかった。

今回は，調査票の自由記述欄に述べられた父親の意見，気持等を分析した結果について報告する。

われわれは，父親に関する実態調査が極めて少ない現状において，今後どのような点に焦点をあわせていくべきかを見出すべく，それらをまとめた。

なお，調査対象者は，神奈川県下の幼児を持つ父親853名で，回答者数は675名，回収率79.1%であった。また自由記述欄に記入した父親は91名で，全体の13.5%であった。

II　結果と考察

自由記述欄に述べられた意見や気持等は，われわれが予め準備したいくつかの選択肢を選ぶだけでは表現されない，父親の「生」の声が表わされており，父親の実態を知る手がかりとして貴重であった。しかしながら，自由記述欄の回答は，件数が少ないため，統計上の処理は行なっていない。従って有意差等について述べることはできず，大まかな傾向を読みとるにとどめる。

まず，意見全体を網羅するために分類してみると，三つの分野に分けることができる。すなわち，①父親のあり方について，②しつけの方法について，③子ども観について，である。各々の分野における主な意見を羅列し，まとめると次の通りである。（但し，原文通りではない。）

1.　意見の概観

A　父親のあり方

(1)　信頼される父親であることを願う。…13名（14.3%）

・もっと話し合うチャンスを作り，信頼される親でありたい。

・父子関係は，成人してから相談相手としてどう対応できるかが決まる。それまでは信頼関係を作る。

・いざという時，いてよかったと思われる存在でありたい。

・お父さんはやさしいがこわいとのこと。まあまあと自負している。

(2)　子どもと仲のよい関係を願う。……12名（13.1%）

・できるだけ正直に接したい。弱点，欠点も知らしめてこそ人間関係。

・子どもにかえって一緒に遊ぶ。年齢を下げて行動を理解する。

・父は父，子は子，されど仲よき。

・休日には，できるだけ父子で話しあう。

・よき父よき友として，会える一瞬を大切にしたい。

・共に遊び学んで，子と共に父親も成長しなければならない。

・子どもの小さな変化もみておかないと話が合わなくなる。

(3)　子どもの自主性を尊重したい。……4名（4.3%）

・子どもの自主性を重んじ，自分は助言者として応援したい。

・子どもの自主性を養うため，できるだけのびのびさせたい。

・子どもの成長を見守りたい。

(4)　子どもに対して厳しくありたいと願う。…6名（6.6%）

・厳しい存在と思われることが必要。一目置かれる権

感を持ちたい。

・メリハリのきいた厳しさが必要。必要なことは教える。

(5) 子どもに範を示したい。……10名（11.0%）

・男のやさしさ・思いやりの見本を精一杯みせたい。

・仕事をする姿から学んでもらいたい。

・母親のできないことを教えたり経験させたりして，範を示している。

・よき模倣の対象として行動している。

・子どもについてこさせている。

・5歳なので，もう男として接している。子どもとしての教育は3歳まで。

・子どもと遊ぶなかで，人間性のおおらかさ，厳しさ，こわさを教えたい。

・スポーツを教え，体力をつけてやりたい。

(6) 迷い・反省など……17名（18.7%）

・昔ながらのしつけをしているが，よその子としつけ法が異なるので迷う。

・どの程度まで干渉すべきか迷う。

・しつけの方法がむつかしい。

・子どもが成長するにつれて，将来のことが不安，説得力に欠けるので。

・仕事をする姿を子どもに見せられなくて残念。

・子どもと接する時間が少ないので，甘やかしがちになる。注意したい。

・子どもと接する時間が少ないので，真の以心伝心が育たない。

・母親と多く接するので，母親になつくのが残念，寂しい。

・甘いと思うが，かわいいかわいい女の子。今からお嫁にやりたくないと思う。

・このアンケートがきっかけで，父子関係について考え直したい。

(7) その他……7名（7.7%）

・経済的不安を与えないことが第一。そのために忙しいのだとわからせたい。

・商人なのでいつも一緒にいるから，特別なことは不要。

・もう年長なので，一緒に遊ぶ時間は不要。

・子どもと一緒に出かけたりしないので，かわいそうだが，休日には休みたい。

・兄弟が少いので，父親が兄弟の一人になるのは仕方がないが弊害も多い。第三者が父親のあり方を子どもに教える必要がある。

・父親よりも外部の指導者の影響を受けるので，その人達に厳しさを望む。

・子どもの成長を楽しみに働いている。

B．しつけの方法……5名（5.5%）

・体罰やほうびより，ことあるごとに注意することがしつけには大切だ。

・よいことはどんどんほめる。

・気付いたことは，母親を通して注意する。

・「だんらん」の時，父親が話をまとめるようにしている。

・家の中を明るく保つことが大切。

C．子ども観

(1) 子どもに対する望みを述べたもの…10名（11.0%）

・外で遊べ，皆と遊べが口ぐせ。

・皆から好かれるかわいい女の子でいてほしい。

・心豊かな子どもであってほしい。

・明るく素直に育ってほしい。

・健康であればよい。

・判断力のある子どもであってほしい。

・相手の立場を考えて行動できるようになってほしい。

・強く，人間らしいやさしさを身につけてほしい。

(2) 子どもの現状を述べたもの……10名（11.0%）

・前向きだ。

・素直だ。

・気楽だ。

・言葉使いが悪い。あいさつをしない。

・今の子どもは弱すぎる。

・甘えが多い。

・物を大切にするという観念がうすい。

・今の子どもは父親と過ごす日には，お金を使って出かけることを楽しみにしている。

・最近の子どもは父親をこわがらない。

以上の分類に基づいて，父親の人柄との関連を表わしたのが，表1，表2である。表1に示したように，自由記述者のうち大卒者は36名で，これは39.6%を占め，アンケート回答者全体の大卒者28.5%に比べると，高学歴の父親の回答が多い。

最も記述の多かった「父親のあり方」について，全体的にみると，子どもに厳しく臨むよりも，信頼され仲のよい関係を望み，実践している父親の方が多い。これは第1報で報告した「父親の自己像」についての結果とも一致する。父親の年齢が20代の場合には「父親のあり方」に迷いや反省を述べた者と，信頼されることを望む者とが多い。40代になると，仲のよい関係を望む者が多い。この若い世代に迷いや反省が多い傾向は，単に経験

表1　自由記述欄回答内容と父親の社会的条件及び子どもの性別

		年齢				学歴					職業			子どもの性別			計
		20代	30代	40代	その他	中卒	高卒	専卒	大卒	その他	事務系	技能系	その他	男児	女児	不明	
自由記述欄回答者全体		7	72	11	1	6	38	5	36	6	53	36	2	44	45	2	91
父親のあり方	信頼される父親	0	12	1	0	1	4	1	6	1	6	7	0	5	8	0	13
	仲のよい関係	1	8	3	0	0	5	1	5	1	8	4	0	7	5	0	12
	自主性を重んずる	0	4	0	0	0	2	0	2	0	3	1	0	2	2	0	4
	厳しくありたい	0	5	1	0	0	1	1	4	0	4	2	0	2	4	0	6
	範を示す	1	8	1	0	0	4	0	6	0	6	3	0	7	3	0	10
	迷い・反省	4	12	1	0	1	7	1	7	1	12	5	0	11	6	0	17
	その他	0	7	1	0	0	3	0	5	0	5	3	0	4	3	0	7
	小計	6	56	8	0	2	26	4	35	3	44	25	0	38	31	0	69
しつけの方法		0	4	1	0	0	2	1	2	1	4	1	0	2	3	0	5
子ども観	望み	0	9	0	1	2	5	0	2	1	5	4	1	1	7	2	10
	現状	1	7	2	0	2	5	0	2	1	3	6	1	4	6	0	10

表2　自由記述意見の内容と自分の父親の人柄

		厳しかった	優しかった	頼もしかった	自分に期待をかけていた	こわくて近づけなかった	放っておかれた	ゆかいな人であった	過保護であった	子どもの言いなりになった	特に印象なし	その頃父なし	その他
父親のあり方	信頼される父親	3	1	0	0	0	1	0	0	0	8	0	0
	仲のよい関係	5	2	1	0	0	2	2	0	0	1	1	0
	自主性を重んずる	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0
	厳しくありたい	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0
	範を示す	2	1	0	0	0	2	0	0	0	6	0	0
	迷い・反省	3	6	2	1	0	2	0	0	0	4	1	0
	その他	1	2	1	1	1	1	0	1	0	4	0	0
	小計	15	13	5	3	2	10	2	1	0	26	3	0
しつけの方法		1	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0
子ども観	望み	6	0	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0
	現状	1	2	1	1	1	1	0	0	1	2	2	0
計		23	15	9	5	3	13	2	1	1	31	6	0

注）重複回答あり

が少ないためなのか，若い世代に特有な現象であるのかは不明である。

学歴別にみると，大学卒の父親は，全体の傾向と同様に，迷いや反省を述べたり，信頼される父親，仲のよい関係を望んでいる者が多いのであるが，他の学歴の者に比べると厳しくありたいと願っている者も多い傾向がみられる。

職業別では，技能系の職業の者は信頼される父親を望む者が多く，事務系の父親は，迷いや反省を述べている者がやや多い傾向がある。

子どもが男児の場合，父親は「範を示す」傾向が強く，また迷いや反省も多いようであり，子どもと仲のよい関係を望んでいる傾向がみられる。女児の場合には信頼される父親を願い，厳しくありたいと願っている者が多い。第1報において報告したように，父親の子ども観には，性差による大きな違いは認められなかったのであるが，今回の結果は，「父親のあり方」には，子どもの性別によって違いのあることを示唆していると言えよ

表3　父子間の距離のおき方

	主な意見内容	N	%
父親から子どもに接近する	・できるだけ多くの時間，子どもと接する。 ・親子で対話ができるように努力，またその雰囲気を作りたい。 ・一緒に魚つり，自転車乗りなどして遊んでいる。 ・友だちでありたい。もっと親しくなりたい。 ・共にあそび，共に学びたい。 ・共に語りあそび，権威をうえつけたい。 ・子どものレベルにあわせて行動し，理解しようとしている。 ・一緒に，朝・夕食をとるようにしている。 ・気がついたことは，その都度注意する。 ・母親のできないことを手本として示したい。但し無理強いはしない。 ・スポーツを教え，体力をつけさせたい。	25	34.2
父子間に距離をおく	・いざという時，子どもの相談相手になる。逃げない。 ・よき親，よき先生，よき友として見守る。 ・子どもの自主性を重んじて，助言者でありたい。 ・働く姿から学んでもらいたい。職場をみせたい。 ・よき模倣の対象として努力している。 ・頼りない態度はみせない。 ・子どもに，ついてこさせる。 ・父親が話をまとめられるように家族が協力すべきである。 ・こわい，厳しい存在と思わせる。 ・一目おかれる存在でありたい。 ・一緒に遊ぶ時間必要なし。子どもと同等になるのは弊害がある。 ・毎日顔を合わせているので，特別にすることはない。	24	32.9
その他	・子どもと接する時間が不足。 ・接する時間が少いので，つい甘やかす。 ・放っておくとヘソを曲げる。あとでくやむ。 ・子どもと共に成長しなければならない。 ・模倣の対象者として責任ある言動が必要だが，意に反対すること多し。 ・このアンケートを機に，父子関係について考え直した。 ・母親になつくのでさみしい。 ・子どもを理解すること，しつけ，子育ては難しい。 ・自慢すべきものがなく，良い手本をみせてやれなくて申しわけない。 ・子どもが大きなるにつれて不安。 ・どこまで干渉すべきか迷う。 ・学校や幼稚園の指導者が厳しくすることが父子関係より大切。 ・第三者が父親のあり方を教える必要あり。 ・父親は経済的不安を与えないことが第一。	24	32.9

う。女児に対して厳しくありたいと願うのは，現在の甘さに対する反省とも受けとられるが，推論の域を出ず，今後調査を要する点である。

表2より「父親のあり方」を自分の父親の人柄との関係について検討してみた。自分の父親の人柄については，「印象なし」と回答した者（34.1%）が，アンケート回答者全体（18.1%）に比べると多い。現在，子どもと仲よくしたいと願っている父親は，自分の父親は「厳しかった」と回答している者が多い。これは自分の父親に対する反動を示しているように思えるが，裏づける資料はない。自分の父親が「優しかった」と回答した父親で，自分は厳しくありたいと願っている者は皆無であり，「父親のあり方」に対する迷いや反省を述べている者が多い。いずれにしても，自分の父親の人柄をいかにとらえているかということ，自分はいかなる父親でありたいかということとは，何らかの関係があるものと思われるが，今回の結果だけでは，明確な結論を得ることはできない。今回得られた傾向を基に，今後の課題としてより綿密な調査を行う必要がある。

2　父子間の距離のおき方

中根[2]は，「一般に権威が形成されるためには，権威者と権威に服する者の間に一定の距離が必要である」と言っている。今回の自由記述欄に述べられた意見のうち，「父親のあり方」についても，厳しくありたいか，優しくありたいかという観点とは別に，父子間に距離を保とうとしているかどうかの観点からも，父親像をみることができる。つまり，父親から子どもへ積極的に働きかけて，接近しようとしている者と，子どもを避けているわけではないが，父親の方から働きかけることはせず，子どもの方から来ればそれを受けとめるものの，平生は父子間に一定の距離を保っている者である。この観点に立って，自由記述欄の意見をまとめると表3のようになる。表3からわかるように，父子間において，父親から子どもに接近しようとしている者が1/3，両者間に距離をおこうとする者が1/3，残り1/3のは反省や迷い，不安などの他に，他者に対する注文，父親の役割についての意見や心情を述べたものである。このうち，父子間に距離を保とうとする態度こそ，母親のあり方と根本的に異なる点であろう。風間[3]は，小学生の親を対象とした調査で「父親が母親のタイプに似て来て密着型になってきている」と指摘しているが，この「密着」という表現も，父子間の距離がなくなって来ていることを表わしているといえよう。

「父子間の距離のおき方」と父親の社会的条件，子どもの性別，自分の父親の人柄との関連を表4，表5に示

表4　父子間の距離のおき方と父親の社会的条件及び子どもの性別

	年齢				学歴					職業			子どもの性別			計
	20代	30代	40代	その他	中卒	高卒	専卒	大卒	その他	事務系	技能系	その他	男児	女児	不明	
子どもに接近する	2	18	5	0	2	12	2	8	1	1	9	0	15	10	0	25
距離をおく	0	21	3	0	0	9	2	12	1	1	9	0	11	13	0	24
その他	4	18	2	0	1	9	1	11	2	2	7	0	16	8	0	24
計	6	57	10	0	3	30	5	31	4	4	25	0	42	31	0	73

表5　父子間の距離とおき方自分の父親の人柄の関係

	厳しかった	優しかった	頼もしかった	自分に期待をかけていた	こわくて近づけなかった	放っておかれた	ゆかいな人であった	過保護であった	子どもの言いなりになった	特に印象なし	その頃父なし	その他	計
子どもに接近する	7	5	5	0	0	2	2	0	0	5	2	0	28
距離をおく	6	4	1	2	0	3	0	0	0	10	0	1	27
その他	6	4	0	0	0	5	0	0	0	8	3	0	26
計	19	13	6	2	0	10	2	0	0	23	5	1	81

注）重複回答あり

している。表4からわかるように，父子間に距離をおこうとする父親は，20代には皆無であり，大卒，事務系の父親，及び子どもが女児の場合に多い傾向がみられる。また表5から，子どもに接近しようとする者は，自分の父親の人柄を「頼もしかった」と捉えていた者が多いことがわかる。

中根が言うように，権威が形成されるために，権威者と権威に服する者の間に一定の距離が必要であるとしても，今回の調査結果に表われた「距離をおく」傾向が，そのまま権威の形式と直接結びついているかどうかは不明である。しかし，父子間の距離に対する認識と実際を明らかにすることが，一般によく言われるように「最近の父親は権威がなくなった」かどうかを知るための重要なポイントになると思われる。この点についても，今後明らかにするための調査が必要である。

父子間に距離をおこうとする場合，子どもに優しくありたいか，厳しくありたいかとは，直接関係がないようである。子どもに優しくありたいか，厳しくありたいかという尺度と，父子間に距離をおこうとする尺度とが，いかなる関係にあるのかについても，今後明らかにして行かなければならない。

Ⅲ　結　論

アンケート調査の自由記述欄に述べられた。91名の父親の意見，気持から，選択肢を選んでもらうだけでは得られない「生」の声を知ることができた。それらは「父親のあり方」について述べられたものが大部分を占めていたが，現在幼児をもつ父親は，厳しい存在であるよりも，信頼され仲のよい存在であることを願っている者が多いことがわかった。また，父親としての反省や迷い，不安などを述べた意見も多かったが，それらは20代，30代及び事務系の職業の者，子どもが男児の場合に特に多い傾向がみられた。子どもと仲よくしたいと願っている者は，自分の父親は「厳しかった」と捉えている者が多いようであった。「父親のあり方」には子どもの性別によって違いがみられた。

「父子間の距離のおき方」については①父親から子どもに接近しようとする者，②父子間に距離をおこうとする者，③その他，父子間の距離のおき方については不明，の3タイプがあることがわかった。特に父子間に距離をおこうとする者は，20代の父親にはなく，大卒者や事務系の職業の者に多かったが，この距離をおこうとする態度は，母親のそれと大いに異なる点であり，今後父親像を調査する上で，権威の形成との関連において重要なポイントになると思われる。

今回の調査結果より，今後に残された課題は，次のような事柄である。

1）　父子間の距離のおき方について，現在の父親たちはどのように認識し実践しているのか。またそれに関連して権威についてはどのように考えているのか。

2）　父親たちは，どのような父親であることを願っているのか，また実際はどうか。さらに，自分の父親の人柄を，自分自身の父親との関連において，どのように捉えているのか。

3）　父親たちは，父親の役割を果すことに自信をもっ

ているのか，あるいは不安や迷いの方が多いのか。

4）上記の事柄は，父親の社会的条件，子どもの条件によって差が生じるのか。

これらの事柄について，われわれは新たにアンケート調査等を行ない，現在の父親像を少しずつ明らかにして行く予定である。

文　献

1）窪龍子，青柳幸子，高野陽，「父親の育児に関する認識と実践について」，日本総合愛育研究所紀要第17集，P37—47，1981。

2）中根千枝，「父親の基礎と役割」NHK "70年代われらの世界" プロジェクト編「オヤジー父なき社会の家族」，ダイヤモンド社，1974。

3）風間大治，『親子関係と家族教育の現代的状況(1)』，NKH総合放送文化研究所「文研月報」Vol. 27，No. 2，P24～35，1977。

4）佐々木孝次，「父親とは何か」講談社現代新書，1982。